

# コスモス 6月号

第67巻 第6号

◆宮柁ニカレンダー(3) 六月の歌

枝々に鮮<sup>あたら</sup>しき実<sup>てら</sup>を照<sup>てら</sup>しつつこの果樹園<sup>ろくぐわん</sup>の六月  
の光<sup>ひかり</sup>

歌集『晩夏』

「鮮しき実」五首中三首目の歌。初出は「日本農業」昭和二十四年六月号で、歌集収録時に初句「枝々の」が推敲された。「枝々の」だと「実」に係る用法でやや平板だが、「枝々に」となることによつて一首のリズムが躍動する。

「六月の光」については思い出がある。かつてコスモス全国大会で、このフレーズを使った会員の歌があった。宮先生は「六月の光」とは何か。六月一日の日の光のことだ」と明言された。そのことを印象深く覚えている。  
(武田弘之)